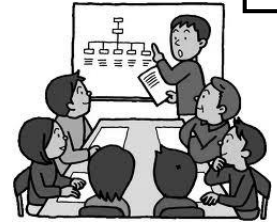


●第2回津軽石地区復興まちづくり検討会

◆開催概要

日時：11月28日(月) 18:30~21:00

場所：荷竹自治会館 出席者：検討会メンバー27名



検討にあたっての情報提供

■地区復興まちづくり便りへの意見等について

皆様からお寄せいただいた復興まちづくりに関するご意見やご提言をお知らせし、検討を進めました。

■浸水深と建物被害の関係について

宮古市の建物被害は、浸水深2m前後で被災状況に大きな差があり、2m以下の場合では建物が全壊となる割合が大幅に低下しています。

■津波シミュレーションについて

第1回検討会では岩手県が示した T.P.+10.4mの防潮堤整備を行った場合に3.11のような想定される最大クラスの津波をあてた場合のシミュレーション結果をご説明しました。それに加え今回は、赤前の低地部に二線堤を整備した場合(3ケース)のシミュレーション結果をご説明しました。稲荷橋延長線の場合は5.5~7.5m程度、工業高校北側の場合は3~6m程度、ふ化場付近の場合は6m程度の二線堤の盛土高が必要になると予想されます。

また、最悪のケースを想定し、防潮堤が破壊された時でも人命を確実に守れるようにするため、避難計画は防潮堤がない場合のシミュレーション結果をもとに検討を進めました。

■宅地等の造成イメージについて

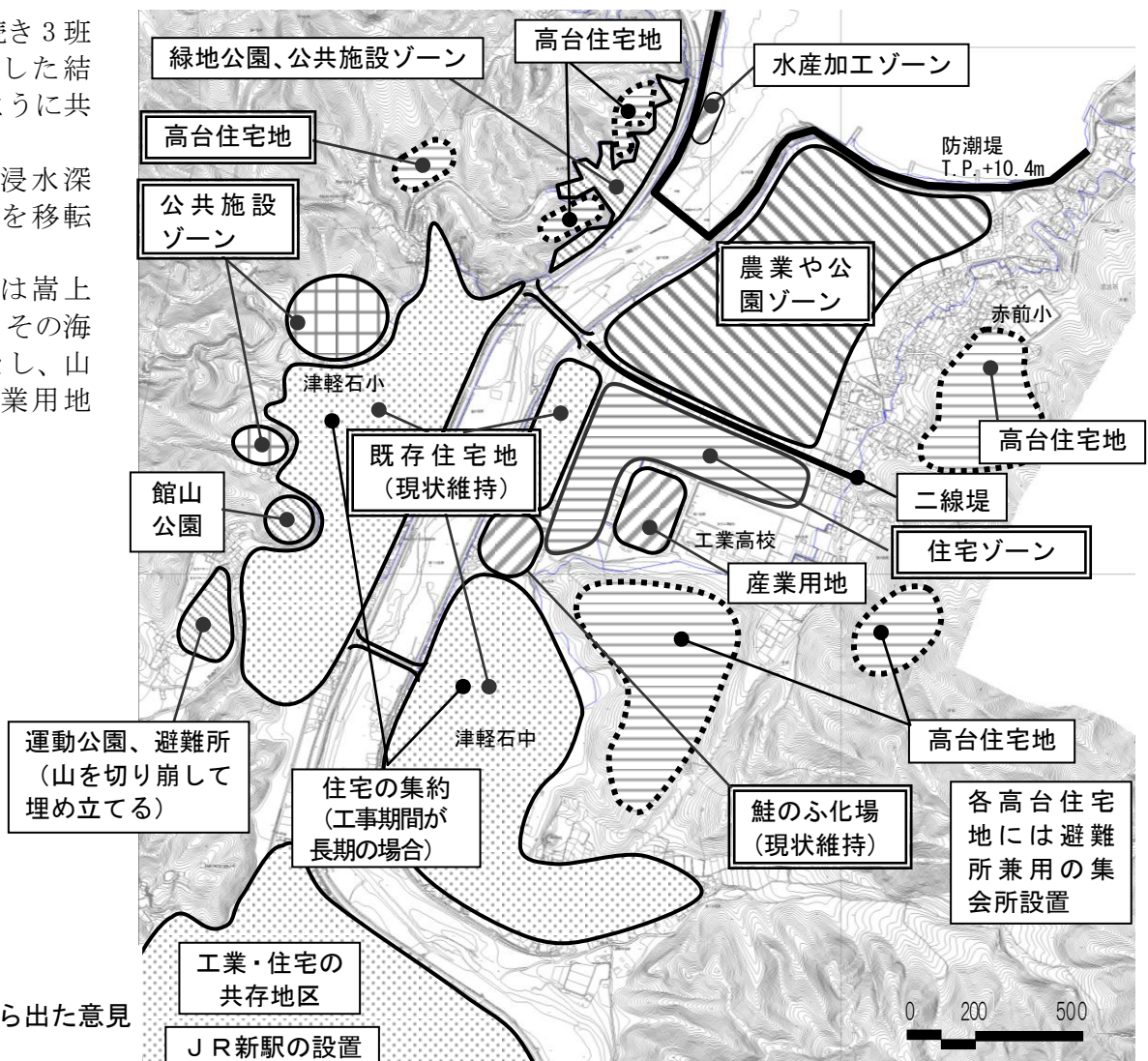
第1回検討会での意見をもとに法の脇の背後や津軽石小学校の背後地での宅地造成イメージ図をお示しし、検討を進めました。

住宅・産業等の土地利用の方針について出た主な意見

第1回に引き続き3班に分かれて検討した結果、右図に示すように共有できました。

法の脇は予想浸水深が深いので住宅を移転し公園等にする。

津軽石川右岸は嵩上げ道路を整備し、その海側は農地や公園とし、山側に住宅地や産業用地を集約する。

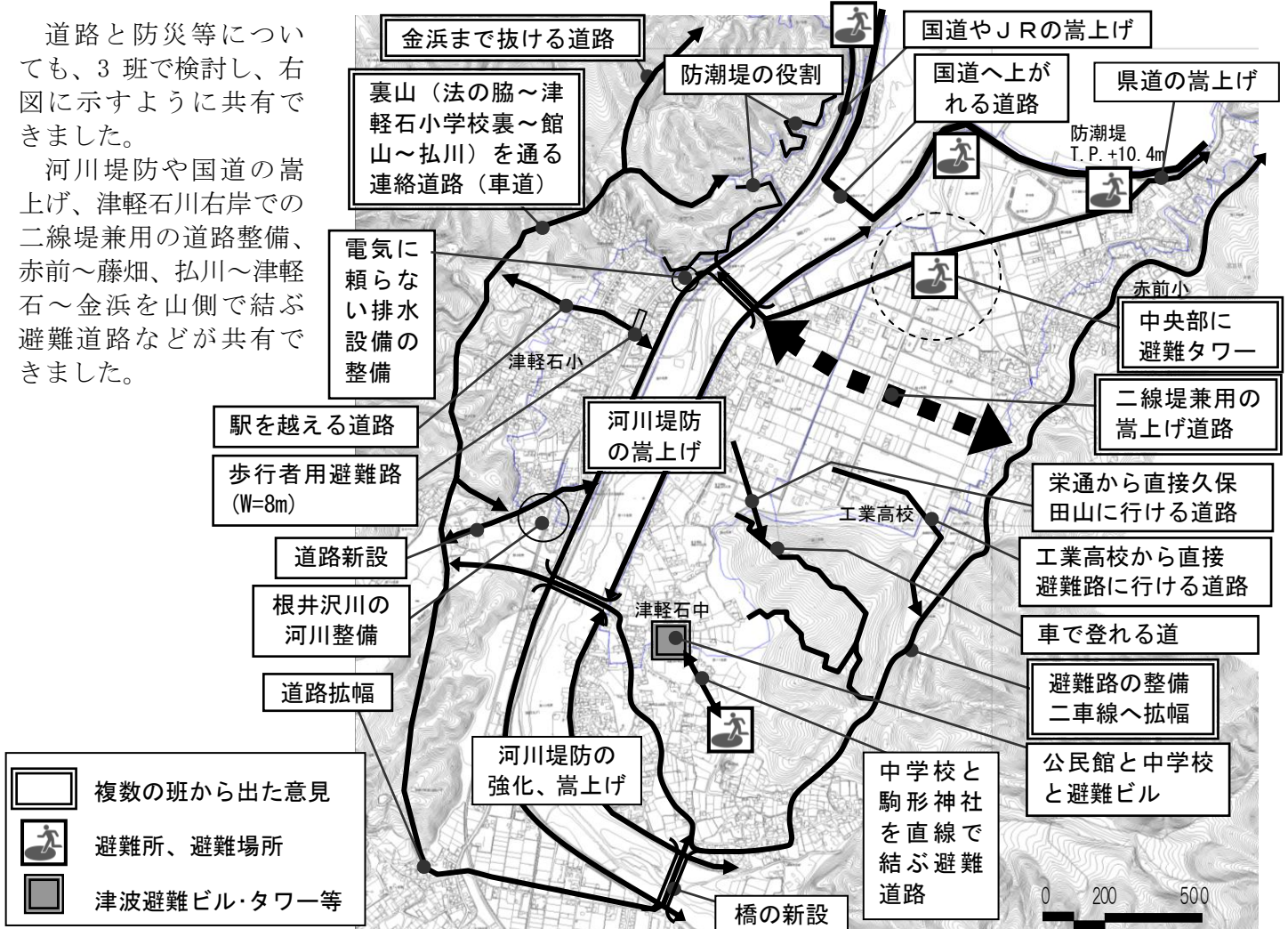


☐ 複数の班から出た意見

道路、防災等の方針について出た主な意見

道路と防災等についても、3班で検討し、右図に示すように共有できました。

河川堤防や国道の嵩上げ、津軽石川右岸での二線堤兼用の道路整備、赤前～藤畑、弘川～津軽石～金浜を山側で結ぶ避難道路などが共有できました。



今回の検討会で共有できた方針

①土地利用の方針

既存住宅地	国道45号と津軽石川河川堤防の嵩上げにより、津軽石川左岸、津軽石川右岸の栄通や駒形通などは今までどおりの住宅地。
法の脇地区	予想浸水深が深い法の脇については、住宅を背後の高台へ移転し、従前地は緑地公園や公共施設用地。ただし、高台住宅地では等価交換での宅地取得や短期間での移転が課題。工事期間が長期に渡る場合は、津軽石駅周辺や藤畑周辺などに住宅を集約。
津軽石小学校裏	津軽石支所や公民館等を集約する公共施設ゾーン。
弘川周辺	現状どおり工業や住宅が共存するゾーン。
工業高校周辺	津軽石川右岸に整備する二線堤兼用道路の山側は住宅地、既存工場等の集約ゾーン。ふ化場については、現状維持。
津軽石川右岸海側	予想浸水深が高い区域は農地や公園ゾーン。

②道路、防災等の方針

河川堤防の嵩上げ	県で示される防潮堤整備のほか、河川堤防の強化や嵩上げ、国道の嵩上げ。稲荷橋、駒形橋の拡幅、嵩上げと、藤畑弘川間の橋梁新設。山津波への対策として根井沢川の河川整備。
二線堤兼用道路の整備	予想浸水深が高い区域は津軽石右岸では二線堤兼用道路の整備。
避難道路の整備	津波発生時での自動車ですぐに避難できるよう集落を取り囲むように山側での避難道路の整備（赤前～藤畑、弘川～津軽石～金浜）。津軽石川左岸において山側に迅速に避難できるよう道路の整備。久保田山に迅速に避難できるよう栄通からの避難道路等の整備。工業高校から避難道路へ迅速に避難できるよう道路の整備（嵩上げ）。津軽石中学校と駒形神社を直線で結ぶ避難道路の整備。
津波避難タワーの整備	予想浸水深が深い区域内における津波避難タワーなどの整備。